

# 平成27年度「研究大学強化促進事業」フォローアップ 進捗状況概要 神戸大学

## 目的

本学においては、URA機能の強化と活用により、「優秀な研究者の人材登用」、「国際展開(海外連携強化、国際共同研究の実施、国際共著論文数の増加)」、「産学連携の強化・推進(研究ニーズ収集、研究成果発信等)」、「研究支援体制強化(研究設備、研究支援人材等の増強)」を図り、個人及び研究科の研究力を強化する。併せて学術研究推進体制の機能強化により、「自然科学系先端融合研究環」、「社会科学系教育研究府」、「統合研究拠点」において、フラッグシップ・プロジェクトを強化・推進するとともに、組織連携を通じて先端研究・文理融合研究を展開する。これらにより本学の研究力を飛躍的に向上させ、世界大学ランキング200位以内を目指す。

## これまでの実績・進捗状況

### 体制整備

#### 研究力強化に向けた体制整備

新たにURAを配置し、研究力評価指標の改善、中長期的な研究力強化の仕組み作り、大学全体の研究戦略の策定支援等に係る活動を展開した。H27より、研究と産学連携を理事が兼務し、研究推進担当副学長の配置等により、出口まで見据えた研究戦略等を検討する体制を強化した。

#### 学内ネットワークの構築

URAが自然科学・人社系を含めた全16部局を定期的に訪問し、URA業務、各部局の科研費等の採択状況、論文データの分析結果等について説明した上で意見交換を行い、部局のニーズや課題等を共有し、今後の戦略を検討するなど有機的な学内ネットワークを構築した。

#### 研究支援体制の強化

学内共同利用設備の整備・支援体制強化、リサーチ・アシスタント(RA)・研究支援推進員の配置等により研究支援体制を強化し、研究者が研究活動に専念できる環境を整備した。

### 先端研究・文理融合研究

#### 科研費の採択改善

種目別採択状況、他大学との比較等の分析を行い、各部局の戦略策定支援を行うとともに、科研費説明会では、審査員から見た書き方ポイント等の説明を行い、URAによる初心者セミナーも開催した。URAによる通常支援と併せて科研費の大型種目、若手種目、再挑戦への支援強化のため、インセンティブ経費を付与する早期支援プログラムを実施した。

#### 大型競争的資金(CREST・さきがけ等)獲得支援

採択状況、他大学との比較等の分析を行い、採択増加に向けた施策を検討し、制度・応募のポイント等の理解促進を目的とした説明会等の開催、申請数増加に向けた各部局訪問、URAを中心とした申請書作成支援等により、H27の申請数倍増につながった。

#### 先端研究・文理融合研究プロジェクトの創生

URAを中心として、CREST(社会現象の数学モデル化の創成)及び科研基盤S申請に向けて4部局連携の文理融合プロジェクトの支援等を行った。また、機能強化構想での体制整備として、科学技術イノベーション研究科の設置準備、先端融合研究推進組織の整備等を行っている。

### その他制度改革等

#### 国際的な研究力強化

URAと国際担当部署が連携し、国際共同研究に向けた人材交流促進のため、これまでのワークショップ等を契機に開始した研究交流を共同研究へと繋げる新たな助成プログラム「国際研究力強化事業助成」を開始し、国際的プレゼンス向上に資する取組の助成を行った。

#### 若手研究者の支援・育成

URAを中心に、若手人材育成の方針と理念に基づいた全学的なテニュアトラックの制度設計・導入方針等を検討し、運営体制、規則、ガイドライン、部局への支援策を決定し、自主財源等を活用した「神戸大学テニュアトラックプログラム」を開始した。

#### 研究戦略策定支援

新たに設置した戦略企画本部において、担当理事等と連携し、機能強化に向けた現状分析、目標達成に向けた指標等の設定、求められる機能・役割、組織体系、具体的なミッション等についてURAが中心となって企画・立案を行った。

## 今後の課題と展望

- ・先端研究・文理融合研究の推進に向けた体制整備・支援策等の検討(先端融合研究組織等の整備、科研費・大型競争的資金等の獲得支援強化)。
- ・国際的な研究力強化に向けた取組の推進(国際共同研究、英語論文の質の向上、国際情報発信、レピュテーションの向上等)。
- ・優秀な若手研究者を育成・確保する支援策の強化(本学テニュアトラック制や他の補助事業等を活用した若手研究者支援の取組の一層の強化)。
- ・URAの組織体制が長期的に維持されるよう、持続的な人材育成・確保、適切な評価方法・基準に基づく具体的なキャリアパス・職種等の整備。

## フォローアップ結果

評点区分：順調に進んでいる

### 全体を通じた所見

- 学術研究推進機構は、その内部の学術研究推進本部と連携創造本部との関係も含め、ガバナンス体制がシンプルであり、推進体制の強化が図られている。大学の強みと弱みの分析に基づく各種の取組や特色としているバランスのとれた文系と理系の一層のレベルアップについての取組も順調に進んでいることが確認された。
- 学長のリーダーシップの下、「神戸大学ビジョン2015」の達成に向け、URAを含めて努力が認められる。

### 特に優れた点

- 文理融合型の科学技術イノベーション研究科の設置計画、各種の先端融合プロジェクトの発足は、大学の強みをより強化する取組として今後の発展と成果を期待したい。

### 期待する点

- 文理融合を一つの特色とする中で、自主財源によるURAを含めて、文系の人材も必要と思われ、それを考慮した今後の対応とURAのキャリアパス等の人事制度面の早急な制度制定が望まれる。
- テニュアトラック教員及び外国人教員の採用については、更なる取組の加速を期待したい。